

東日本大震災後の同一地域における鍼灸ボランティアの実態調査 4年間の活動から見られる受診者動向・推移

杏園堂鍼灸院

原田大祐 松原麻実 須藤隆昭

【目的】

東日本大震災被災地支援団体「プロジェクトさとわ」では、震災当初の2011年より岩手県陸前高田市にて鍼灸によるボランティア活動を行ってきた。今回、同一地域での継続した活動における定点観測からみられた受診者動向・推移について調査を実施した。

【方法】

受診者のカルテを資料とし、調査を行った。対象は2011年8月20日から2014年10月21日まで計24回の間を受診した計227名。活動内容は、岩手県陸前高田市スーパーマイヤ滝の里店前にて、各年5月から10月までの間、月平均1~2回活動。治療スペースとしてキャンピングカー内に簡易ベッドを作成。カルテは同一の様式のものを使用した。これまで鍼灸師等、計16名が現地にて活動を行う。

【結果】

受診者は男性92名、女性135名。年代別では50代19.8%、60代18.5%、70代15.4%の順が多かった。初診時主訴は腰下肢痛、頸肩腕痛の整形外科系の愁訴が81%であった。年毎の延べ受診者数推移は2011年59名(6日活動)、2012年158名(19日活動)、2013年153名(15日活動)、2014年160名(13日活動)。日平均受診者数は2011年9.8名、2012年8.3名、2013年10.2名、2014年12.3名であった。

【考察・結語】

今回の調査により、年毎の受診者推移が増加傾向にあり、日平均受診者も増加していることが明らかとなった。受診者が増加傾向にあるのは、同一地域での継続した活動によって活動の認知度や鍼灸の認知度が向上したものと考えられる。また、陸前高田市では震災前にあった鍼灸院がゼロとなり、患者は市外の鍼灸院への通院を余儀なくされていたことも、受診者増加の一因と考えられる。ただ、活動を継続しているものの月1~2回の治療では患者の体調管理・維持に限界があるため、今後は運動療法や食事療法、自宅での施灸といったセルフケアの指導等を強化していくことも課題と考えている。

【キーワード】 鍼灸 定点観測 東日本大震災 ボランティア